

ルワンダ☆スタディー☆ツアー☆報告

大変遅くなりましたが、スタディーツアーの報告をさせていただきます。
ニューズレターでは、日記形式で、それぞれの参加者に報告をしてもらいましたが、ニューズレターに盛り込みきれなかったエピソードなどを思いつくままにお知らせします。

今回参加したメンバーを紹介しましょう。

ツアーリーダーの『ルイズ』には、何から何までお世話になりました。本当にお疲れ様でした。一度に11人のお客様を受け入れるということは、本当に大変でした。私たちの世話だけで忙しくて、親戚や友人たちとゆっくり話す時間ありませんでした。

そして、ルイズの三女、『サクラ』は、滞在期間中、ルワンダ語の通訳として、大活躍でした。特に、学校での図工の授業では、「こういう方法もあるよ!」とルワンダの子ども達に、日本で勉強した事を教えていました。

郡山から参加の『遠藤信子』さんは、ルイズが技術研修生として初めて来日した時、「アジアインフォメーションセンター」で日本語の指導をしてくださった方です。今回は、ウムチョムウイーザ学園で日本語の授業をしてくださいました。

フランス語で子ども達に挨拶した遠藤さん。早速、子供たちに、「いち、に、さん」と数字を日本語で教えました。次に、色紙を使って、「これは赤」、「これは青」、続いて緑、黄色と、これも日本語で教えました。

そこで、次に取り出したのが「UNO」。色つきの数字のカードを子ども達に見せて、「これは?」と聞きます。「あかのいち、あかのに」と子ども達はすぐに色と数字を組み合わせて日本語で答えます。「さすが〜」遠藤さんの指導の鮮やかさと、子ども達の適応の早さに感服でした。



同じく郡山から参加の『佐藤まき子』さんは、「アジアインフォメーションセンター」のメンバーです。海外旅行経験が豊富で、好奇心旺盛なまき子さん、今回は、折り紙を子供たちに教えてくださいました。上手にできた折り紙のコップの中にご褒美のミルクを入れてあげると、子ども達は大喜び。子ども達からは、「まき子」、「まき子」と呼ばれて大人気でした。

いわき市から参加した『村田富美恵』さんは、高校の社会の先生で、「アジアインフォメーションセンター」のメンバーでもあります。青年海外協力隊のOGというキャリアが物語るように、英語がとても上手で、通訳として活躍してくださいました。後で登場する野地先生とのコンビは絶妙で、ステキな授業を展開してくれました。

筑波大学2年生の『辻恵美』さんは、特別支援児（以前は障害児と言っていました）教育について勉強していて、先生方と協力して、今後もウムチョムウイーザ学園における特別支援児教育について、研究を重ねていってくれる事になっています。

アカゲラからの帰り、めがねを落としてしまった辻さんですが、キガリの眼鏡屋さんでステキな眼鏡を作りました。お買い物大好きな恵美ちゃん、キガリの街の中でも、ステキなお店をあちこち発掘したようです。

福島から参加の『石山美紀子』さんは、看護学校生です。美紀ちゃんは、明るいキャラクターで、みんなを和ませてくれました。

自分から進んで、食事の準備から後片付けまで、毎日、よくお手伝いをしていました。

チャールズ校長先生の長男ジャンミッシェルや、親戚の青年ジレー、校長先生宅のお手伝いの女の子達とも仲良しになりました。

学校での授業のときは、アシスタントとして授業を手伝ってくれました。子ども達からは、「美紀子」、「美紀子」と慕われていました。そうなんです！「美紀子」、「まき子」は、子ども達から大人気でした。看護師の資格が取れたら、今度は、ルワンダへ長期の滞在と言う事で行ってくれるそうです。期待してますよ、美紀ちゃん！

バンコクの空港から合流した『伊藤彩』さんは、天下のNHKの敏腕ディレクターです。支える会の頃から、ルイズ一家を応援してきてくださいました。今回も流暢な英語で、ルワンダの皆さんと交流したり、プロのジャーナリストの目で、写真やビデオを撮ってくださったり。「カッコイイ〜！」と叫んだ事が何回もありました。いつか、ウムチョムウイーザ学園に関する番組を作ってくださいね！

私達より4日遅れでルワンダ入りした『野地順子』さんは、福島市の平田小学校の先生です。昨年もルワンダへ行ってくださったのですが、今年もまた行ってくれました。折り紙や絵の具を使った図工の授業は、子ども達はもちろん先生方も大喜びでこれからもずっと続けていって欲しいなあと思いました。

野地先生は、2度目のルワンダと言う事もある、キガリの町の中でステキなお店をたくさん見つけたようです。村田さんと二人だけでお買い物をして、タクシーで帰ってきたり、校長先生のお家の周りのブティック（個人のお店のことをルワンダではこう呼んでいました。食料品や雑貨を扱っているお店が多かったです。）めぐりをしたり…。自由時間が殆んど無かったルイズや飯高とは、比べものにならないくらい、ルワンダ通になって、帰ってきました。



井戸掘りでお世話になる『中屋』さんは、わがままな女性陣の中にたった一人の男性と言う事で、なんか可哀想なイメージがあるかと思いますが、淡々と、でもとてもフレンドリーに接してくださいました。機械全般に知識が豊富で、ジェネレーターや、トラックなど、色々なものを修理してくれました。セネガルやタンザニアで長く活動されてきたので、スワヒリ語も話せましたし、キャッサバの粉で作るお餅のような「ウガリ」をルワンダの人達と同じように手で食べていたのが印象的でした。現地調査を兼ねて、一人でキガリに残ってもらったのですが、何の心配も要りませんでした。

最後に『飯高千恵子』です。日本にいた間は、毎日、ルイズと共に会のことで殺人的スケジュールをこなしていたのですが、ルワンダへ行ったら、食事は3食作ってもらえるし、授業をする予定の無い私は、ひょっとしたらお昼寝なんかもできちゃって、暇な時間を持て余すのかもしれない…なんて夢を抱いて飛び立ったのですが…厳しい現実が待っていました…

第1の試練。毎月、学校へは先生方のお給料や建設費用を送金しているのですが、手数料がもったいないので、今回は持参する事になりました。学校へのお金と自分のお小遣いで、3500ドルを持っていくのに、100ドル札ならほんの数ミリの厚さなのに、両替に失敗したため、1ドル札が結構多くて、札束の厚さが5センチほどの分厚いものになってしまいました。そのうえ、ルイズから、お腹に巻いていくように言われ、福島の家を出る時からキガリのルイズの家で荷物を解くまで、お札は、私のお腹に密着していました。このお金は、もちろん皆さんの真心そのものであり、ルイズと飯高の汗と涙の結晶なのですが…まさしく、私の汗が、しっかりしみこんだ「おも〜い、お金」になっていました。お腹には、汗疹もできていました…

そしてバス。4月に送ったあのバスが、ルワンダの税関には着いていたのですが、なぜか学校に着いていなかったのです…！

詳しくは、ニューズレターをご覧ください。

とにかく、カーチールの区長さん、キガリ市長さん、環境担当大臣、警察の有力者、日通東京本社スタッフ、多くの皆さんのご尽力により、私たちの帰国日、8月11日の午前10時30分、ようやくバスは税関を出る事ができました。

校長先生の奥さんのフランソワーズと共にキガリの町の中にある銀行や学校の近くにある銀行、郵便局へ行ったり、校長先生、ルイズ、中屋さんと共にカーチール区役所、キガリ市役所、環境大臣のオフィスを訪問したり、その合間を縫って、税関や日通の現地代理店へ行ったり、とにかく忙しかったです。

（でも何故か…痩せませんでした！）



ここで、キガリでの一日の流れを紹介しましょう。



朝は、ルイズの家に住んでいる『フラハ』という少女のお掃除をする音で目覚めます。

ルイズの親戚の方が交代で、早朝から大量のお湯を薪で沸かしてくれていました。そのお湯を使って、順番に「コウガ」（ルワンダ語でシャワーの事）をします。たらい1杯のお湯をフラハが浴室まで運んでくれました。そのお湯を使って、シャンプーや体洗いを済ませます。慣れるとこれでも結構、気持ちよくさっぱりする事ができました。

みんなで順番にコウガとトイレと洗面を済ませると、フランソワーズの用意してくれたおいしい朝食です。オムレツとフライドポテト、おいしいフランスパン、新鮮なアボガドやバナナ、パパイヤ、そして、ルワンダ式チャイ（紅茶）。ルイズの家の玄関前テラスにテーブルを移動して、毎日、おいしく頂きました。肝心のルイズは、忙しくて殆んど一緒に食べる事ができなかったのが残念でした。

私達が食事をしている間に、校長先生や校長先生の末息子ベンジャミン、孫のフィーエ、フラハ、ボーラ（校長先生の家のお手伝いの女の子）がトラックで学校へ行きます。

戻ってきたトラックに乗って、私たちも出発です。でこぼこのアフリカンロードを時間をかけてゆっくり進みます。皆、荷台から振り落とされないようにバランスをとりつつ、「ワーワー！キャーキャー！」とにぎやかに学校を目指しました。



学校での様子は、ニュースレターにあるとおりです。13:30頃、学校の授業が終わります。それから昼食会場になる家へ大移動です。ルイズのお母さんの家とお兄さんの家で交互にランチを用意してくれました。やかんの水をかけてもらって手を洗い、大きな皿に自分の好きなお料理をとって食べます。野菜もお肉もお魚も本当においしかった！新鮮な果物の味も忘れられません。とにかく、親戚総出で、私たちの受け入れをしてくれました。

昼食の後は、ルイズと飯高はそれぞれまた銀行やお役所や税関へ出かけ、皆さんはお買い物などで町へ出かけると言ったパターンでした。

夕方、暗くなると、ジェネレーターが登場です。500? のガソリンがなくなるまでの3時間くらいは電気がつきますが、それを過ぎると暗闇です。ランプやロウソクの明かりを頼りに、夕食をいただいたり、おしゃべりをしたり、コウガしたり…ルワンダの夜は静かにふけていきました。

ざっとこんな風な一日を過ごすのに、ルイズの親戚の皆さんや、学校のスタッフの皆さんにどれほどお世話になったかわかりません。本当にありがとうございました。お一人お一人を紹介したいところですが、紙面の関係で今回は割愛しますが、今後、ニュースレターの中で、「現地スタッフ紹介コーナー」を設けて、随時紹介していく予定です。



カーチールの区長さんが案内してくださった「ジェノサイドメモリアル」については、次頁（コラッセ写真展の時の展示用の文書）をご覧ください。

ジェノサイドの文書は、ルワンダの内戦について、ルイズだからわかる事実を記載しました。ルワンダの理解のために役立ててください。



2004年11月

NPO法人

ルワンダの教育を考える会



皆様からお寄せいただいたご質問について、お答えします。

ルワンダの国の様子について

- Q ルワンダの情勢は安定してきていますか？
？ 内戦直後に比べれば、かなり安定しました。少し明かりが見えてきた感じです。
- Q 日本は、ルワンダの教育行政を援助していますか？
それは、年間いくらですか？
？ 調べようがなく、わかりませんでした。
- Q エイズ患者の状況は？
？ データ的に正確には把握していませんが、ルイズの周囲からの情報では、かなりいます。
- Q 町では、どんなものが売られていますか？
また、手に入らないものは、どんなものですか？
？ 食料品やヨーロッパからの古着、日用品が売られています。
電化製品は、なかなか手に入らないようです。
- Q バナナの木で皮で作った飾り物は、何をモチーフにしていますか？
どこで誰が作っていますか？
？ ルワンダの生活の様子や風景をモチーフにしています。
ストリートチルドレン等を集めて、技術指導をしている方がいます。6ヶ月間、彼のもとで学んだ子供たちは、自分の村に帰ってカード作りをします。私たちは、そこから取り寄せています。
- Q 今のルワンダの女性たちは、どんな様子ですか？
？ 女性たちは大変ですが、みんな頑張っています。女性の約半数は未亡人ですが、みんな子供をかかえて、頑張って生きています。明るいニュースは、国会議員の45%が女性です。この比率は、世界で一番です。カーチール区の女性たちのファクトリーで作っている「マラクジャ ジュース」をおみやげにいただきました。
- Q ルワンダの人々の一番の悩みは？
？ 停電や断水等、ライフラインの整備が進んでいない事です。





ルワンダの学校の様子について

- Q ルワンダの学校数は、子供の人数に対して適切ですか？
？ かなり不足しています。40%の子供が未就学です。
- Q ルワンダに今、必要なのは、援助金ですか？他に出来る事は？
？ 物を送るには、送料がかかり、大変なので、日本でしか手に入らない物は、送りますが、援助金という形が、一番ありがたいです。
- Q 学校で、何を学びたい、学ばせたいのですか？
？ 生きていくために必要な、読み書き、計算です。そして、人間として生きていくために大切な事、平和作りの一員となれる事を学んでほしいです。
- Q 子供たちの平和教育のために実行している事、また、困難な事は？
そして、将来の希望は何ですか？
？ 公立学校等、既存の学校では、ツチ族、フツ族を受け入れる割合が決まっていますが、ウムチョムウイーザ学園では、平和のために学びにくる子供であれば、学費が払えなくても受け入れています。
内戦後、それぞれちがう傷を心や身体に受けています。その傷をいやすために、それぞれの状況を把握する事が難しいです。

ルワンダの子供たちの様子について

- Q 子供たちは、普段、何を食べていますか？
？ 一般的には、朝食は、チャイ（紅茶）とアマンダーズイ（ルワンダ式揚げパン）、昼食や夕食は、豆やイモ、野菜、ウガリ等を食べています。三食とも食べられる子供もいれば、二食、一食の子供もいます。
- Q 子供たちにとって、あれば良いものは？
？ 給食を出してあげたいです。現在、20数名の子供が、食べる物がいないために、体力がなく、毎日は通学できず、休みがちです。
- Q 各家庭に、テレビはありますか？
子供たちは、どんな番組を観ていますか？
？ ほとんどの家庭にテレビはありません。
テレビ放送についてですが、衛星放送では、ヨーロッパの番組を観る事ができます。ルワンダ国営放送では、夕方6時頃にアニメ等、子供向け番組を放送します。ニュース番組は、英語、フランス語、スワヒリ語、ルワンダ語の4ヶ国語で放送されます。